

アンケート集計結果

「リハビリテーションに関するアンケート調査」

調査時期：平成24年6月
 県政モニター数 358人
 回答者 304人（回収率 84.9%）
 担当課：リハビリテーションセンター

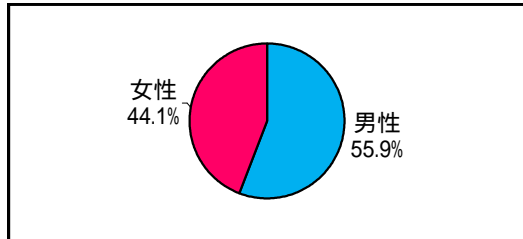
滋賀県立リハビリテーションセンターでは、地域リハビリテーションや総合リハビリテーションを推進し、地域と県全体をつなぐネットワーク作りや、利用者本位の一貫したリハビリテーションサービスを提供できるよう様々な取り組みを行っています。

今後、リハビリテーションセンターでの事業を推進し、また効果的な広報活動を実施していくにあたり、リハビリテーションについての皆様のご意見をお伺いしたくアンケート調査を実施しました。

問1 あなたの性別を教えてください。

性別

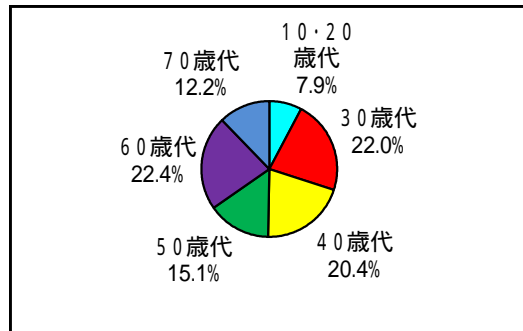
項目	人数(人)	割合(%)
男性	170	55.9%
女性	134	44.1%
合計	304	100



問2 あなたの年齢を教えてください。

年代

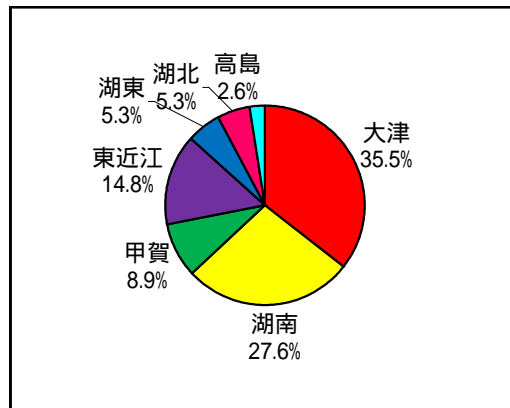
項目	人数(人)	割合
10・20歳代	24	7.9
30歳代	67	22
40歳代	62	20.4
50歳代	46	15.1
60歳代	68	22.4
70歳代	37	12.2
合計	304	100



問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

居住地域

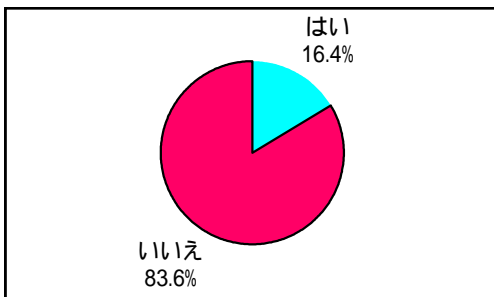
項目	人数(人)	割合
大津	108	35.5
湖南	84	27.6
甲賀	27	8.9
東近江	45	14.8
湖東	16	5.3
湖北	16	5.3
高島	8	2.6
合計	304	100



問4 あなたは医療・福祉に関わるお仕事をされていますか。もしくは過去にされていたことがありますか。

医療・福祉の仕事の従事の有無

項目	人数(人)	割合
はい	50	16.4
いいえ	254	83.6
合計	304	100

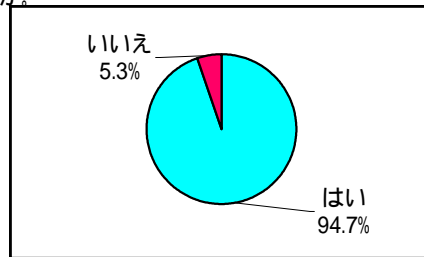


問5 問4で「はい」と回答された方にお聞きします。医療、福祉関係の資格をお持ちの場合、差し支えなければ、どのような資格が教えていただけますか。

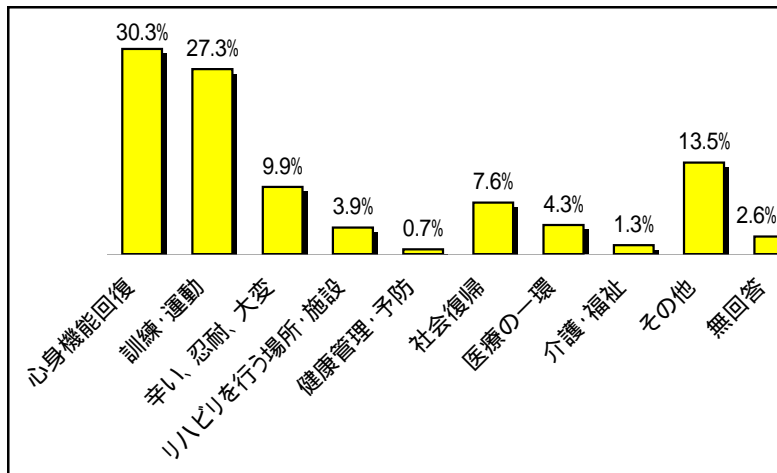
- | | |
|-----------|-----------|
| 理学療法士 | ホームヘルパー2級 |
| 介護福祉士 | 保育士 |
| 看護師 | 訪問介護員1級 |
| 介護支援専門員 | 検査技師 |
| 助産師 | 社会福祉主事 |
| 保健師 | 歯科衛生士 |
| 福祉用具特別専門員 | 養護教諭 |
| 医療事務 | 医科大学教官 |
| 医療秘書 | 管理栄養士 |

問6 あなたは「リハビリテーション」という言葉をご存じですか。

項目	人数(人)	割合
はい	288	94.7%
いいえ	16	5.3%
合計	304	100.0%

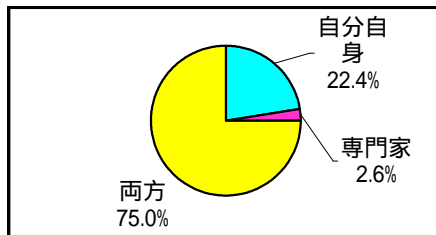


問7 問6で「はい」と回答された方にお聞きします。リハビリテーションについて、あなたがお持ちのイメージを一言で教えてください。(重複回答あり)



問8 リハビリテーションは誰がするものだと思いますか。

項目	人数(人)	割合
自分自身	68	22.4%
専門家	8	2.6%
両方	228	75.0%
合計	304	100.0%



問9 なぜそうお考えですか、下記にお書きください。(抜粋)

自分自身

- ・自分自身のために自分が努力するのは当然
- ・自分の実体験から
- ・リハビリは自分が困っているから行うのであって、あくまでも専門家は適切なアドバイスをくれる立場だと思うから
- ・自分のことは自分しかわからないから
- ・専門家や肉親はあくまでも助言者。生体器官の回復増殖は自身の努力によらざるを得ない。これを超えるものは医療行為。

専門家

- ・専門家のきちんとした指導のもとにやるべきだと思います。
- ・やはりそうした専門家でないと適切な判断ができないと思うから
- ・有資格者がするものだから

両者

- ・最終的には自分自身のやる気によるところが大きいが、身体機能の回復や社会復帰には専門家の介入が不可欠と考える。
- ・自分だけの力では限界があり、専門家の助言があってはじめて効率的な機能回復が望めると思います。
- ・人間は一人では生きていけない。他者との豊かな関係性を維持できること、例えばコミュニケーション、協力関係、相互扶助等を持つ事により生きる希望が持てる。
- ・専門家による科学的知見・経験と熱意、それに社会復帰を願う本人の強い意志が合体して初めてリハビリは効果があり、結果を出すことができると思う。
- ・両者の協力はもちろん家族、友人の支えは大事だと思います。
- ・リハビリテーションをするうえで誰一人と同じ状況の方はいないのだから、両者がするべき。
- ・自身の努力が必要なのはもちろんだが、専門家による科学的なアドバイス無しに取組むのは、効果なくむしろ危険かもしれないと思うから。
- ・専門家から提示されるだけでなく、それを本人がいかに活かすかで質が決まると思うから。また話し合っただけが必要か、どうしたいのかを確認することは必ず必要だと思う。
- ・治すのはあくまで本人。医学は補助手段。
- ・自分もお世話になったし、どちらかが一方だけが頑張っても意味がない。
- ・共存共栄のごとく、リハビリはするものとされるものとの合意と協力的体制により、成り立つ。
- ・精神的には、本人次第であると思う。しかし、該当者の社会環境によっては、行政や専門家の支援が必要である。

問10 リハビリテーションについてのご意見等がありましたら、下記にお書きください。

- ・様々なリハビリテーションがあり、また回復に向けて各段階でリハビリ内容、受ける施設が変わると思いますが、継続の必要性の確認や引き継ぎなど、対応の専門医の方々や施設の体制がどの程度整えられているかは私自身はわかりませんが、大変重要で急がれるべき課題なのだろうと思っています。医療と介護との連携、地域連携などいろいろと難しい課題があるのではと思います。

- ・圧倒的に、老人向けよりも、子供向け、働き盛りの世代向けリハビリ施設が少なく感じる。10～50代よりも時間があり市政県政国政に物申すことができる力が強い(団塊の世代より上は圧倒的に国民に占める割合が大きいですから)60歳～の老人のいうことが権力を持ち、実際に追い詰められているこれから先未来ある子供らや成人～働き盛りの30,40代がそういった恩恵にあやかれないことが非常に多いように感ずる。事故して骨折、医者から要リハビリ通いと診断 解雇 なんてザラです。

- ・リハビリは、人に寄り添ってもらってやるものではないのかな。機械だけがそろっていて、人がいないところがありますね。それでは、人は戻るのでしょうか。精神面からの支えも必要です。会話も必要です。

- ・現在も進められていると思いますが、
 - 1)リハビリ環境(施設面、人的な面)の充実
 - 2)リハビリ機材の提供(特に自宅でのリハビリ)
 - 3)リハビリ先進国の研究
 - 4)費用面での負担減
 - 5)リハビリテーションプログラムの多様化 など

- ・医療と介護の連携が言われているが、それぞれ制度上の規制が優先され、個々人に適した納得するようリハビリテーションを受けることが困難な現状がある。県内で供給に格差が見られる。障害者や高齢者の増加が見込まれる中、専門職の質の向上と県内地域どこでも同じように受けられる提供施設、専門職の人材の確保(量)をお願いしたい。

- ・毎日、自分自身が健康管理意識を持ち実践する事に尽きる。
例えば、毎日歩くことの継続。

・あまり詳しくはないのですが、リハビリは専門家の知識ややり方によって、効果に差が出るようなので、専門家の方には幅広い知識を得て欲しいと思う。

リハビリは辛くて大変な感じがするので、メンタルのサポートもあれば、より良いと思う。

・人の病院でリハビリにかかると、ただ名前を呼ばれて電気をかける？だけ。

本当に大丈夫なのか？とつい思ってしまう。

県から統一されたリハビリの場所があれば良いのではないだろうか？

図書館のように本館・北館・和邇館など場所をわかれて、

各地域で軽いリハビリを始めれば、医療費もグリーンと減るような気がする。

・超高齢化に伴ってリハビリを必要とする人が増加の一途になると思う。予防対策として地域に公の指導員や相談できる体制作りが必要。

また、リハビリステーションでも予防対策を考えて提案制度を拡充して欲しい。

・今までに経験がないので、ピンときませんが、体のどこかが不自由であることが前提であると思う

ので、やはり自宅の近くで受けられることが一番ありがたいかと思います。特別な場所へ行くのではなく、近くのジムやプール、公共の施設などで手軽に行けることが重要かと思います。

・交通傷害や脳梗塞等によりリハビリを受けている人が多数居る。担当者には本当にご苦労様と言いたい。

リハビリを必要とする人の数は今後圧倒的に増えるものと思う。

しかるに、その待遇は悲惨なもの聞く。

後期高齢者の急増「充満」する社会に突入する前に、優秀な、多くの人材を確保するためのしっかりとした方策を樹てて貰いたい。

・本人がその気にさせることを重点に置いてほしい。最近は他人に頼る傾向があり、本人のためにもよくない

・リハビリは費用の面から、健康保険や介護保険との兼ね合いがあるが、健康診断や交通事故の防止など、リハビリが必要な状態にならないよう、疾病予防や事故防止の面の取り組みも必要であろう。

・本人の努力もさることながら、リハビリの専門家の技量で効果に違いが出そう。

・この方面で、もっとあんまマッサージ指圧師を活用してください。

国家資格であるあんまマッサージ指圧師には、機能訓練指導員という資格が付与されているので、適切なリハビリテーションを指導することができます。

後期高齢者の負担も病院に係るよりも少なく、マッサージももちろん取り入れてリハビリテーションをおこなうのが利点です。

実際にとっても快方に向かっていく患者さんを何人も目の前で見てるので、私個人として、おすすめします。

・高齢者のリハビリも大切ですね

又 後遺症などの障害を抱えた方のリハビリは体だけでなく 心のリハビリも大切だと考えます

・回復まで指導・援助をすべき。期間を限定せずに！

・リハビリテーションが必要な状態になった人が、できる限り早期にリハビリテーションを開始できるような環境作りが必要だと思います。開始までの時間が経てば経つほど、リハビリテーションの効果が薄れ、また回復に時間がかかるようになるでしょうから。

・当自治会でも栄養やリハのセミナーを自治会館で行っている。

地域に出向して、出前セミナーをどんどんやればいい。

・滋賀県にはリハビリセンターが少ないと思います。自立できるセンターが地域にあり、利用しやすい

環境が必要だと思います。誰もが障害者になりうるのですし、自分のことが少しでもできるようになることは本人及び家族、しいては地域にとっても望ましいことだと思います。